

頑張る

# 農業法人

高齢・過疎化が進む南丹市美山町鶴ヶ岡地区で、1999年に地区住民により設立された農業法人「有有限会社タナセン」。

区住民106人の出資で設立した。社名は地元の諏訪神社の伝統行事「棚野の千両祭り」から名付けた。

農作業受託を行う農事部、食品や生活用品の店舗経営を行う購買部、高齢者のサポートを行う福祉部の3部署で地区住民の営農と生活を支える事業を展開している。

代表取締役の柿迫正紀さんの他4人の取締役、従業員1人とパートタイマー3人で経営する。

同地区は同市北部で福井県との境に位置する中山間地域。18集落のうち6集落が65歳以上の高齢化率50%以上となっている。

農事部では農作業受託だけを行う。地区内の3つの広域営農組合が作付け計画などを策定し、各集落で対応できない農作業を受託する方針だ。

同社の設立は高齢化による担い手不足が顕著になる中、JAの購買店舗の閉鎖がきっかけだった。店舗を残し、地域農業を支えていこうと、地

農地や農作業を法人が全て引き受けると、委託者は農業から心も離れてしまい、集落のコミュニティ機能も崩れてしまふという考えだ。高齢者

も地域農業の維持に参画してもらい、どうしてもできない農作業を同社が補完することを徹底している。

同社では、高齢者でも水稲栽培に取り組めるようJA京都の指導を受けて、省力・低コストが図れる鉄コーティングの直播(ちよくは)栽培を3年前から導入し、各集落に技術指導を行っている。昨年は5・5畝の作

南丹市  
美山町

## (有)タナセン



多彩な事業展開で地域の農業と生活を守る  
農事部長の柿迫さん(右)とスタッフ

## 住民の生活を支える

## コミュニティ機能維持へ

付を実現した。この他、ソバや麦、白大豆の栽培も提案し、播種などの農作業を受託している。

購買部では、要望に応じて精肉と鮮魚の販売を取り入れた他、野菜の直売を行い、住民の貴重な買い物と触れ合いの場となっている。

福祉部では、独居老人からの電話注文を受けて無料で配達する「ふるさとサポート便」を行い、安否確認もする。さらに同市の受託事業で高齢者約70戸の除雪作業を行う。

柿迫義昭さんは「経営は決して楽ではないが、地域になくはならない存在。コミュニティ機能を維持することを第一にして頑張ってきた」と話す。

▽法人所在地 南丹市美山町鶴ヶ岡新釈迦堂前1。電話 0771(76)0016。